

TOKAS Project Vol. 7

鳥がさえずり、山は動く Singing Birds, Moving Mountains

2024年10月5日(土)～11月10日(日)

トーキョーアーツアンドスペース本郷

—都市の周縁が持つ可能性を問う展覧会

TOKAS Project は、国際的な交流を促進し、多文化的な視点を通じてアートや社会など多様なテーマについて思考することを目的に、トーキョーアーツアンドスペース(TOKAS)が開催しているプログラムです。

7回目となる本展では、2023年に TOKAS のキュレーター招聘プログラムに参加したアヨス・プルウォアジを共同キュレーターに迎え、インドネシアと日本のアーティストによる作品を紹介します。その土地固有の伝承や記憶のアーカイブ・プロジェクトを展開するプルウォアジは、日本滞在中に各地に点在する「モニュメント」を調査し、1970～80年代における東京の急速な都市開発との関連性を探りました。

日本ではパンデミック後、首都圏への人口流入が拡大し、東京の一極集中が再び強まりを見せています。一方インドネシアでは、交通渋滞や大気汚染、地盤沈下などを理由に、2024年から段階的に首都をジャカルタから約 2000km 離れたカリマンタン島東部に位置するヌサンタラへ移転しようとしています。都市はさまざまな権力が集中し、多くの人や物が集まる場所として人々を魅了してきました。しかし現在、世界各地でその綻びが生じていることは否めません。

本展では、インドネシアと日本の社会的変化を端緒として、都市を離れ地方で活動続けるアーティストに焦点を当てます。地球の生態系の中で重要な役割を担っている鳥のように、地域に根差した活動をとおして生み出される彼／彼女らの作品は、山を動かすような力強さを観る者に提示します。

■ 展覧会概要

展覧会名: TOKAS Project Vol. 7 「鳥がさえずり、山は動く」

英語タイトル: TOKAS Project Vol. 7 “Singing Birds, Moving Mountains”

共同キュレーター: **アヨス・プルウォアジ**

参加アーティスト: **尾花賢一、プレワンガン・スタジオ、ランガス・ウエンギ**

会期: 2024年10月5日(土)～11月10日(日)

会場: トーキョーアーツアンドスペース本郷(東京都文京区本郷 2-4-16)

開館時間: 11:00 - 19:00(最終入場は 30 分前まで)

休館日: 月曜日(10月14日、11月4日は開館)、10月15日(火)、11月5日(火)

入場料: 無料

主催: 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館 トーキョーアーツアンドスペース

ウェブサイト: <https://www.tokyoartsandspace.jp/>

<お問い合わせ>

〒135-0022 東京都江東区三好4-1-1 東京都現代美術館内

トーキョーアーツアンドスペース(公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館)

広報担当: 舟橋、市川、武智

TEL: 03-5245-1142 FAX: 03-5245-1154 E-mail: press@tokyoartsandspace.jp

■ 関連イベント

アーティスト・トーク

開催日: 2024年10月5日(土) 時間未定

出演: アヨス・プルウォアジ、尾花賢一、プレワンガン・スタジオ、ランガス・ウエンギ

※その他イベントを開催予定。最新情報は TOKAS ウェブサイトで発表します。

■ 共同キュレーター

アヨス・プルウォアジ

Ayos PURWOAJI

2023年度キュレーター招聘プログラム参加

歴史、建築、視覚芸術の分野で横断的に活動するキュレーターであり、2015年から多くの展覧会やキュレーション・プロジェクトに携わる。ヴァナキュラー・アーカイビング(その土地固有の文化の収集・保存)と集合的記憶の実践に関する活動も行う。スラバヤ現代遺産協議会(SCHC)を共同設立し、文化遺産に関する批評的な言説を研究する。

1987年ジェンベル(インドネシア)生まれ。スラバヤを拠点に活動。2013年 ITS スラバヤ工科大学産業プロダクトデザイン学科卒業。

主なキュレーションに「Jakarta International Photography Festival」(Blok M、ジャカルタ、2022)、「目に見えないものとの交渉」(九州芸文館、福岡、2022)、「ビエンナーレ ジョグジャ XVI」(ジョグジャ国立博物館、ジョグジャカルタ、2021)など。

■ 参加アーティスト

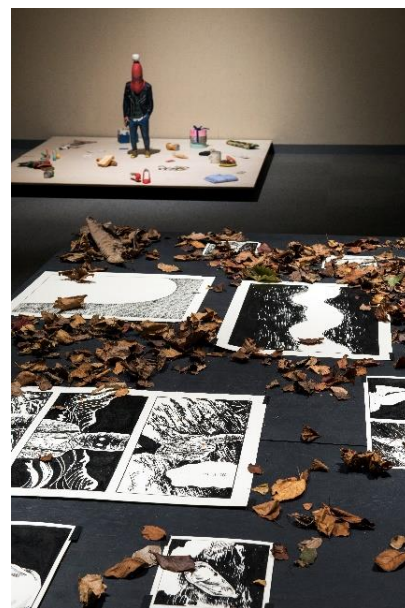
尾花賢一

OBANA Kenichi

人々の営みや、伝承、土地の風景や歴史から生成したドローイングや彫刻を制作。虚構と現実を往来しながら物語を体感していく作品を探求する。本展では、都心の仕事に疲弊した主人公が逃避し、辿り着いた町で新たな人生を見つける作品《森の奥、そして》(2017-2018)を再構成し、新作を組み合わせたインスタレーションを発表する。

1981年群馬県生まれ。秋田県を拠点に活動。筑波大学大学院芸術研究科芸術専攻修了。

主な展覧会に「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ 2024」(まつだい郷土資料館、十日町、新潟)、「多摩川ジオントグラフィー」(調布市文化会館たづくり、東京、2024)、「国際芸術祭あいち 2022」(愛知)、「VOCA展 2021 現代美術の展望—新しい平面の作家たち—」(上野の森美術館、東京、2021)、「表現の生態系」(アーツ前橋、2019)など。主な受賞歴に「上毛芸術文化賞」(2022)、「VOCA賞」(2021)、「Tokyo Midtown Award 優秀賞」(2015)など。



《森の奥、そして》(2017-2018)

プレワンガン・スタジオ

Prewangan Studio

インドネシア第2の都市スラバヤから西に約100km、東ジャワ州の北海岸に位置するトゥバンを拠点に活動。

教育、科学、アート、テクノロジーなど、さまざまな分野で創造的に活動する、市民主導のオープンで協力的なコミュニティ。DIY精神でモノや製品を創造、開発、実験することに重点を置く。メンバーは、教師、マルチメディア・アーティスト、家具職人、電気職人、人形職人、デザイナー、ミュージシャン、獣医などで構成され、地域の人々もコラボレーターとして参加している。



ランガス・ウェンギ

Rangas Wengi

インドネシアの中央ジャワ州パティにある約9万人が住む農村部スコリロを拠点に活動。

現代アートと伝統的な美学を融合させながら、農村の日常生活にもとづいた作品を制作するアート・コレクティブ。芸術的実践において物理的な空間に優先順位を付けず、参加者を制限することのない原初的なエコシステムを目指す。土地や環境、地域文化に関する問題など、領域横断的な活動を展開する。



■ インドネシア地図(部分)

